

再びソウルへ

(2018年10月3～6日)

関根 茂子

5月は雨にたたられ博物館巡りでハイキングはできなかった。そこで、S姉から再びソウルでハイキングのお誘いが来る。行きそこなった雲吉山と5月に仁川空港で入手した「ソウルアウトドア」に紹介されているソウル漢陽都城ギルの白岳山を歩こうと10月3～6日に出かける。メンバーは70代の女性4人。晴天続きの天気予報は台風25号の接近で最終日に雨マークがついてしまったが、中日の4,5が降らなければ御の字だ。

チェジュ航空(往復@34,500円)は成田空港第3ターミナルから出発、食事・飲み物は有料なのに5月利用のアシアナ航空より3,700円も高い。泊まりは鍾路3街のフォーチュンホテル3連泊(ツイン1室@8,000円)だ。

■10月3日(水) 晴

成田空港第2ターミナルから無料バスで第3ターミナルへ行く。チェジュ航空7C1011便は定時11:50に出発、順調に飛んで仁川空港第1ターミナル14:30着。入国審査は自分でパスポートをスキャナ台に置いてスキャン、入国のスタンプは省略されていた。両替(日本円1万円=88,200₩[1ウォン≒0.1円])後、共同費として@10,000₩を拠出する。

ホテルのある鍾路3街駅へは空港鉄道を孔徳で地下鉄5号線に乗り換えるのだ。孔徳までの空港鉄道普通電車1回券を購入(4,150₩+保証金500₩)、地下鉄の乗換は路線番号と路線色の表示を見ながら歩けば問題ない。鍾路3街駅の6番



曲牆から景福宮と世宗大路(右下)を見下ろす

出口に近い地下鉄の改札口で地下鉄のカードをタッチするがゲートが開かない。駅員はどこにもいなく、どうしようもなく押し通って出た。

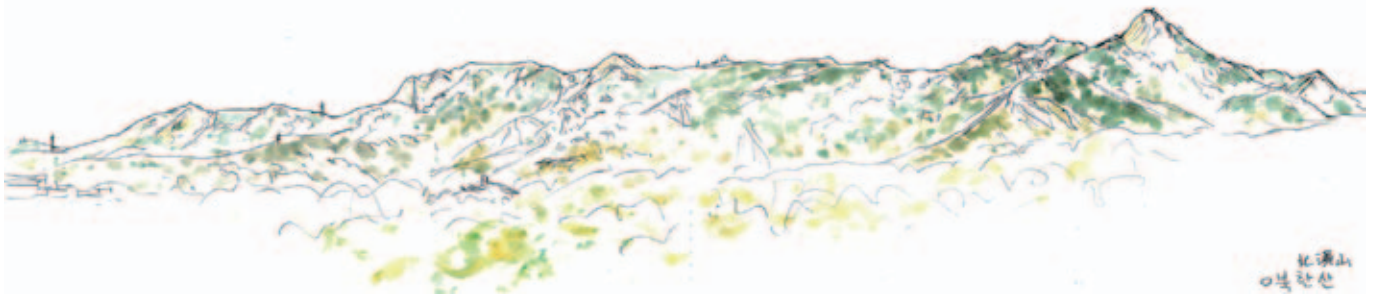
出口からホテルへは、地図を見せて道を教えてもらい、地番を頼りに探した。ホテル着17:00頃、シングルと2段ベッドがあり洗面所にトイレとシャワーが同居、7時からトースト、茹で卵、コーヒーの朝食が無料だった。夕食は近くの焼肉店で骨付き豚肉を2人前80,000₩、ご飯が付いていなかったの、戻る途中でヘルムパジョを1枚15,000₩を分け合って食す。S姉の判断で明日はソウル漢陽都城ギルの白岳山ハイキングとなる。

■10月4日(木) 晴

8:05ホテル出発。地下鉄3号線で景福宮駅へ3番出口で地上へ8:30、郊外へ向かう緑のバス7212番、1020番、7022番の乗り場を探して1020番に乗車。地下鉄カードがそのまま使える。バスは混雑していた。下車のバス停は尹東柱文学館と運転手に伝え、8:49無事に下りられた。

◆漢陽都城とは：朝鮮時代に、首都漢陽とそこに住民を守っていたかつての城郭で、高さが平均約5～8m、全体の長さは約18.6kmに至る。ソウルの中心部を囲んでいる北岳山、駱山、南山、イヌアンサン仁王山の稜線に沿って築造された後、幾度も改築が重ねられた。1396年から1910年までの514年間という長きにわたり、都城の機能を担った漢陽都城は、全世界の都城の中で最も古い歴史を誇る。漢陽都城は4大門と4小門を持つ。この道のうち70%は整備され、現在、全部で6区間の散策コースが設けられている。

(ソウル市公式HPより)



北漢山(筆者スケッチ)

そこには2人の軍人の銅像(朝鮮戦争で功のあった?)があった。バス停すぐ横の階段を上ると彰義門^{チャンイムン}に出る。詰所の男性にデジカメを見せて写真を撮りたいとジェスチャー、彼は門をくぐった先に案内して、ここからなら門額が入ると教えてくれた。彰義門案内所は9:00から、「北岳山ソウル城郭探訪」出入り申請書を記入してパスポートを提示、貰った許可証を首にかけて9:10入場する。左側は石造りの城壁、真ん中に段差の大きい石段、右側は手すり柵、柵の外はかってそこを歩いて登れたと思われる踏み跡が続く。柵の際に白い小花が手毬状に集まった花房をたくさんつけた野草が目につく。日本では見たことない。帰国後調べたらマルバフジバカマ(北米原産)だった。日本では西の地方にあるフトボナギナタコウジュもあった。日本で見るより花が大輪のノギクが数種類あった。足元の花を数えながら階段登りに励む。右手内側の山麓には青瓦台^{チョンワデ}があるため目隠し板が続く。左手、城壁越し、付岩洞^{フアムドン}の街並みの先には緑の山肌に白い花崗岩の頂というたおやかな峰々が連なり、右端がぐんと高まった山が北漢山^{フカンサン}だろう。そんな景色をスケッチに収める。

白岳山=北岳山まではまだ登りが続く。監視所から山頂(342.5m)10:50まで往復する。南の脚下に木の間越しに景福宮のお庭に池が見下ろす。分岐からは下りだ。幹に赤○印が付いた「1.21事態の松」が現れる。1968年1月21日、北朝鮮の特殊部隊が大韓民国大統領府「青瓦台」を襲撃した時の韓国軍警との激しい銃撃戦の被弾痕だ。さらに下り青雲台^{チョンウンデ}の広場11:09~11:35で

手持ちのパンを食す。北西の峰の連なりに北岳八角亭^{フガク}?が望まれた。

ここから道は一度、城郭の外に出るが、再び中に戻り城郭が一部丸く突き出した曲牆^{コクチャン}11:57を往復する。曲輪からは、たどってきた白岳山からの城壁が見渡せる。また景福宮^{カンフナムン}から光化門^{セジョンデロ}の真っ直ぐ延びる世宗大路、その左のソウルタワーをのせた南山公園^{ナムサン}も良く見えた。松林の続く広い道を緩く下り蠟台岩^{チョッテ}12:15に立ち寄り、ソウル城郭の北大門に当たる肅靖門^{スツジョンムン}12:30をくぐる。この門はさらに結構な下り道で馬岩案内所に導かれる。ここで許可証を返却12:56~13:11。

直進の道を捨て、右手に折れ臥龍公園^{フリョン}へ向かう巻き道に行く。右上に城壁が続いている。城壁沿いに進めばいいのだ。分岐では文字を確かめ公園に着く。恵化門^{ヘファムン}へ1.7kmの表示を見て13:55、右、城壁の下を歩く。左は住宅街だ。次いで暗門^{アンムン}をくぐって14:05城郭の内側に戻り、公園内の舗装路を行くと外の車道に出る。十字路はそのまま直進、恵化門への距離が記された案内を頼りに街中を進み、最後は階段をあがって復元された恵化門14:44の裏側に出る。門をくぐり抜け、表階段を下る。車道を東にとって地下鉄4号線の漢城大^{ハンソンデ}入口駅^{イクク}14:53に到着。

腹ペコだったので、鍾路3街駅の手前の鍾路5街^{クワンジャン}駅で下車、5月に行った広蔵市場で海鮮チヂミを食べる。市場を見物がてら鍾路3街のホテルまで歩いて帰った。途中でお土産に干し柿を購入(9,000₩)。ホテルでひと休み後、鍾路製麺所でビビンバ^{ビビンバ}麺(7,000₩)の夕食、満腹だ。



広蔵市場のチヂミ店



万頭入り鍋

明日の雲吉山へのアプローチの地下鉄路線・乗換駅を調べて、寝に就いた。

■ 10月5日 雨

7時に食堂で朝食を摂って8時出発と支度をしていると、台風接近のため天気が急激に悪くなり本日は雨との予報。山は諦めて10時から宗廟チョンミョの日本語ガイドツアーに参加しようと9時半にホテルを出て傘を借りて歩いていく。

入場券売り場には外国人19歳から64歳の料金1,000₩とあり65歳以上は無料だった。団体ツアー客といっしょに、雨の中、日本語で解説してくれる韓国人ガイドに案内されて見学する。

宗廟は儒教の思想に基づいて建てられた朝鮮王室の歴代の王と王妃の神主(位牌)を安置し祭礼を行う霊廟だ。庭の池には鯉はいない、池の中の築山には松でない樹木(名前は忘れた)が植えられている。

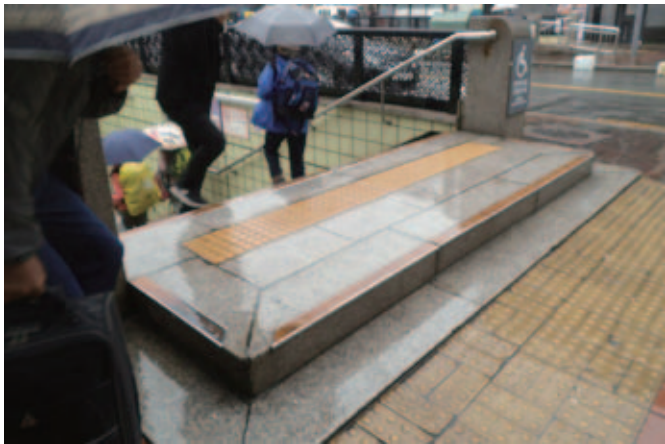
初代の王様である太祖を初め、功德のある王と王妃49位が祭られた「正殿」は横長の建物で赤や緑・黄色などの華やかな色彩ではなく錆びた朱色の柱がずらっと立ち並んでいる。簡素な中に荘厳な趣が感じられように造られたということだ。長さ100mはあろうかとカメラの画面には収まりきれないほどの長さだった。別廟に当たる「永寧殿」も同様の建物で、太祖の4代祖ヨンをはじめ、主に没後、追尊された王と王妃34位の神主が安置されていると

いう。傘をさして説明を聞くうちに、あっという間に案内時間の40分が終わってしまった。

次はどこに行ったらいいのがガイドをしてくれた女性にたずねると、景福宮の隣の古宮博物館を推奨された。歩いて行く途中で前回、素通りしたタブコル公園11:22に立ち寄る。1919年3月1日、33人の民俗代表が独立宣言を読み上げた＝三一独立運動が行われた歴史的な場所だ。中に入ると独立宣言文を刻んだ大きな石碑が建てられていた。雨を避け東屋の石段に腰掛けひと休み。ガラス塔の中に十層の古びた大きな石塔が納められていた。円覚寺ウォンガクサ址と日本語の解説板があったから十三層の塔なら分かる。聞いてみれば三層は壊れて無くなったということらしい。

世宗大路に着き、光化門方向をみると、5月に見た世宗大王像の左手の北漢山と思っていた三角山の後ろに山並みが見えるではないか。稜線の形





地下鉄入口には地上の雨水が入らないように段がある

から、昨日スケッチした山並みに間違いはない。ということは前回の記事に北漢山と書いてしまった山は昨日登った北岳山=白岳山が正しいのだ。誤認した北漢山は世宗大王像の右奥後方に尖がりを見せている山なのだった。そんな山並みも雨ですぐにみえなくなってしまい残念!

光化門の前後4隅には、門衛が立っていた。雨宿りしたことを思い起こしながら、またも傘をさして門をくぐって左手の国立古宮博物館に向かう。ここも無料公開している施設だった。李氏王朝の印章、衣装など展示されていた。装飾をこらした王宮の造り、庭の東屋?などが巨大スクリーンに映し出される。ベンチに座ってゆったり見た。タッチパネルで礼装を装着するまでが見られたのが面白かった。

地下鉄3号線景福宮駅5番出口が博物館入口のすぐそばで助かった。2駅で鍾路3街駅に戻り、昨日の製麺所で饅頭入り野菜たっぷり麺入り煮干し出汁の鍋(@10,000₩)を遅い昼食に摂った。温かくておいしかった。ホテルで教えてもらったサウナの場所を確認してから14:40ホテルに戻る。1時間後、^{インサドン}仁寺洞スパ&サウナへ。(@9,000₩) タオル貸与の公衆浴場だが石鹸・シャンプーはない。3日ぶりのお風呂、やっぱりお風呂はいいな。近くのスーパーを偵察後、近所の果物屋でミニトマト(@7,000₩)を購入。夕飯は持参のパンとトマト、コーヒーで済ませた。

■ 10月6日 雨後晴

フライト7C1104便は15:05なので、スーパーの開店10時を待って買い物をしてから空港に向かえばいいと朝食後、部屋で待機。テレビを見てみると済州島に台風接近、大荒れの天候だ。台風は午後、日本海を東に進む予報だ。飛行機が飛ぶのか情報が欲しいので、空港へ早く行った方がいいと判断して9:00出発。往路と同じく、弘徳駅で乗り換えよう。空港鉄道の切符を買おうと売り場を探すが分からない。駅は地下3階構造で、人に聞きまくった結果、やっと有人の案内所に到達できた。行きの使用済空港鉄道1回券を示すと、精算機の場所を指し示す。@500ウォン返金される。

外国人がチケットを示して、このまま改札を通っても問題ないと言われているのが聞こえた。どうやら、地下鉄カードでも空港鉄道に乗れるようだ。カードを提示すると先方は機械で残額をチェック、1名が金額不足で問題あり。チャージをして、改札を無事に通過、階段を下りれば、空港鉄道のホームだった。何やかやで、第1ターミナル駅で下車したのは12:00、雨はやんでいる。

済州航空のGカウンターに急ぐ。チェックインも機械でやらなければならない。日本語の指示を聞きながら、四苦八苦してチケット発券をクリア、荷物を預けるのも自動化されている。タッチパネルにふれて荷物に着けるタグシートを出して、自分で荷物に取り付け、控えの券を出すのだった。自動化は企業には優しくても利用する人間には厳しい!

12:50中2階の食堂街で昼食(@15,500₩)手荷物検査・出国審査を済ませたら搭乗時間の10分前だ。14:30搭乗開始で順調に飛ばうようで安心。ところが、出発時刻1505なっても一向に動き出さない。離陸を待つこと50分、晴れた下界を眺めて飛び立った。成田18:00着。

4日間でまたもや雲吉山が残ってしまった。次回こそは登りたいものだ。 (完)